

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

### 新燃岳

新燃岳では、本日（30 日）09 時 10 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

本日（30 日）気象庁機動調査班（JMA-MOT）が宮崎県、鹿児島県及び九州地方整備局の協力を得て行った上空からの観測では、新燃岳火口内の一部と火口外の西側斜面に降灰を確認しました。

新燃岳では引き続き火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、火口から 1 km 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

### ○ 3 月 30 日の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 1～4）

噴煙の高さは、08 時に白色の噴煙が火口縁上 400m まで上がりましたが、10 時以降は火口縁上約 50m で推移しています。

本日（30 日）気象庁機動調査班（JMA-MOT）が宮崎県、鹿児島県及び九州地方整備局の協力を得て行った上空からの観測では、新燃岳火口内の一部と火口外の西側斜面に降灰を確認しました。このことから、08 時頃にごく小規模な噴火が発生したと考えられます。新燃岳で噴火が発生したのは、2008 年 8 月 22 日以来です。

赤外熱映像装置<sup>1)</sup>では、熱異常域に特段の変化は見られませんでした。

#### ・微動の状況

07 時 34 分頃から観測されていた火山性微動は、09 時 30 分頃まで続きました。その後 13 時 48 分頃にもごく小さなものが発生しました。

1) 赤外放射温度計で観測しています。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

2008年8月22日にできた火口及び噴気地帯より白い噴煙が上がっているのを確認しました。  
赤枠内が今回、降灰を確認した領域



図 2 霧島山（新燃岳） 火口外の西側斜面の状況

2008年8月22日にできた割れ目より白い噴煙が上がっているのを確認しました。  
赤枠内が今回、降灰を確認した領域

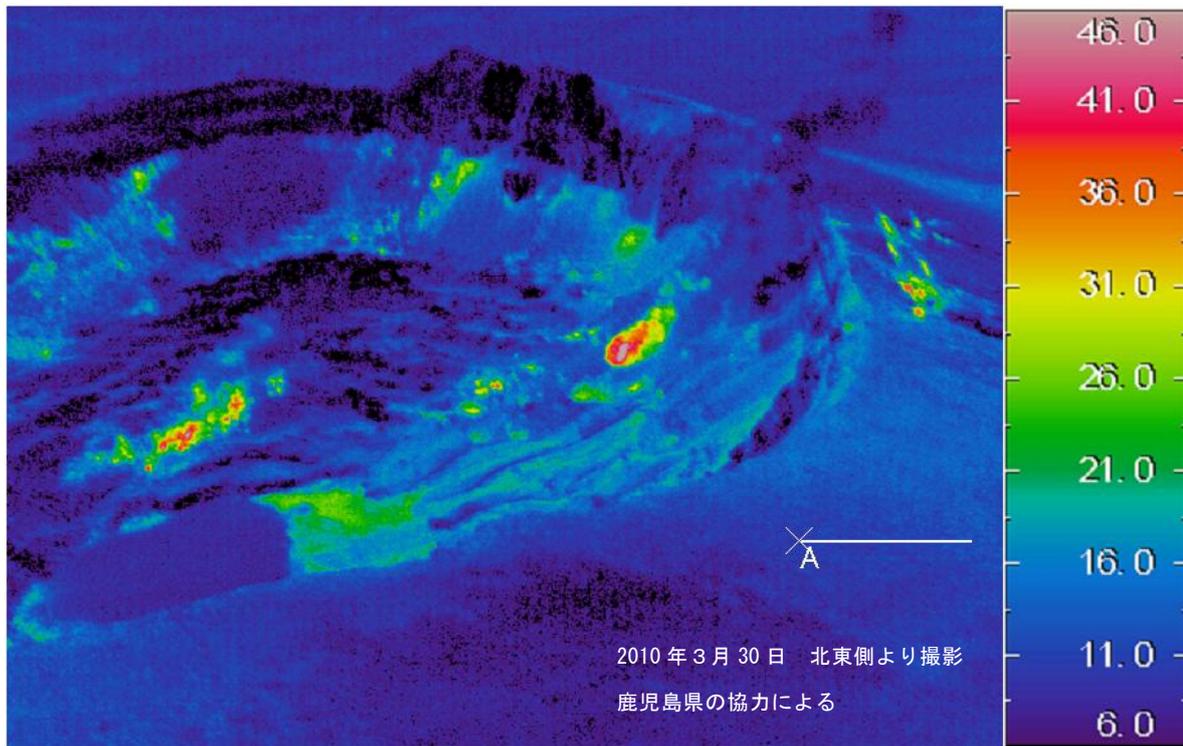


図 3 霧島山（新燃岳） 赤外熱映像装置による火口内の地表面温度分布  
熱異常域に特段の変化は認められませんでした。

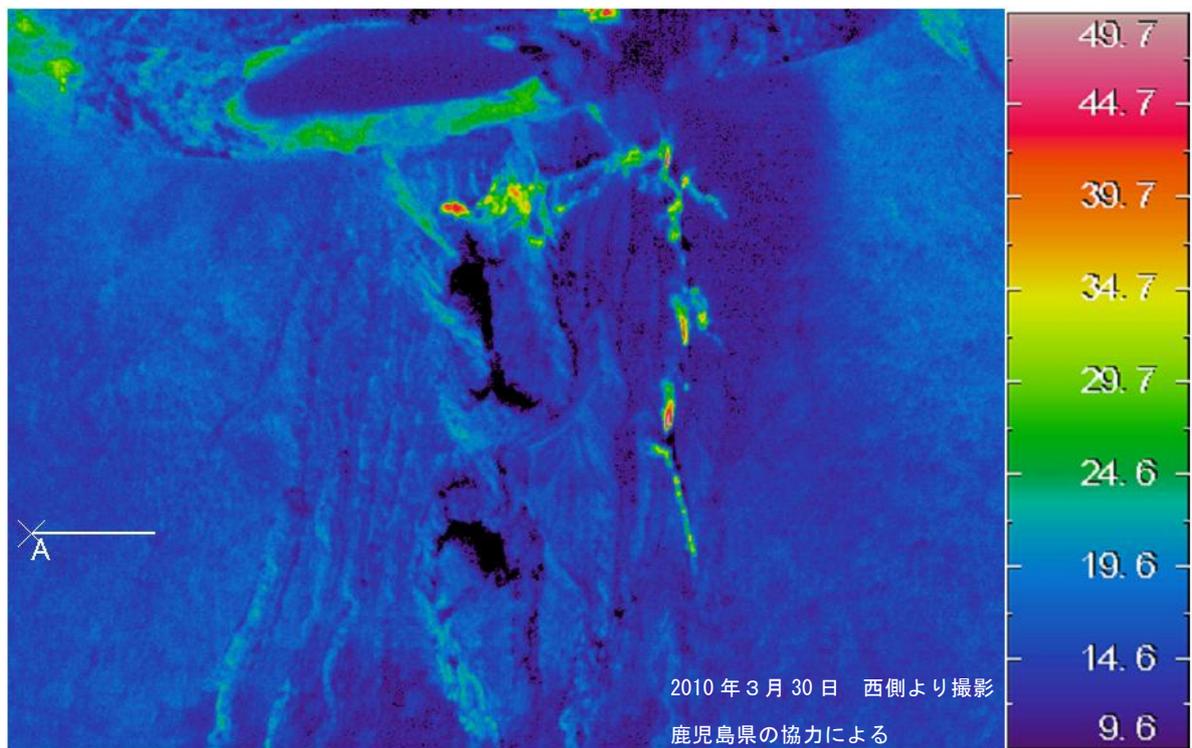


図 4 霧島山（新燃岳） 赤外熱映像装置による火口外西側の地表面温度分布 2010年3月30日  
熱異常域に特段の変化は認められませんでした。

※ 熱画像は、温度の異常がない（白いライン）領域を基準に表示温度を設定しています。